

○1番（佐怒賀康輔君） 皆様、おはようございます。傍聴の皆様方におかれましては、お越しいただきありがとうございます。議席1番、佐怒賀康輔でございます。議長より質問の許可を得ましたので、通告に基づき質問させていただきます。

まず、能登半島地震にて被害を受けた皆様へ謹んでお見舞いを申し上げます。

先日、新たに町内にできたスポーツ施設、アーバンスポーツパーク2ndの落成式に参加してまいりました。東京オリンピック男子BMXフリースタイル金メダリストのローガンマーティン選手をはじめ、数多くのライダー、スケーターの皆様の圧巻のパフォーマンスを間近で拝見いたしました。このように世界で活躍する一流選手と町内で交流できる機会が来るというのは、見学に来ていた小学生や町民の方をはじめ、もちろん私もですが、10年前までは想像もしていなかったようなことがこの町で実際に起きているなど改めて実感したところであります。

橋本町長におかれましては、柔軟な政策とスピード感のある決断、日々ご尽力をいただき、ここに深甚なる敬意を表します。

それでは、まず質問の第1項目めに入らせていただきます。境町の公共交通の今後についてでございます。現在、様々な目的のために境町を訪れる方が増加傾向にあるかと思えます。例えば今申し上げたとおり、世界基準のスポーツ施設、アーバンスポーツパークですとかテニスコート、ホッケー場が境町にございます。ほかにも自動運転バスに乗ってみたいとか、隈研吾氏の建造物巡りたいとか、道の駅に買物に行きたいですとか、様々な目的によって町外から町内へ訪問される方が増えております。加えて、町内から町外へと向かう公共交通についても、これまでとは異なる様々な取組を町のほうでは実施していただいております。そちらについて、改めて現状と今後についてご質問させていただきたく存じます。一部町長の行政報告の中でもお話出ておりましたが、改めてこの場を借りてご質問させてください。

まず1点目は、東京一境町間の高速バスについてでございます。コロナ禍に新規事業として開始したこちらの高速バスですが、当初は何かあまり誰も乗っていないのではないかと、運行を続けられるのかといった心配の声も町民の方から聞かれましたが、今では週末になると朝からバス停に順番待ちの行列ができているような状態になっております。私も個人的に非常に重宝させていただいておりまして、先日は近所の子供たちがディズニーランドに行くときに、同級生はみんな使っていますというようなことも教えていただきまして、非常に幅広いニーズに応えられているのかなと感じた次第であります。こちらの高速バス、非常に好調で右肩上がりの事業として成長していることと思いますが、改めて現在の利用者数ですとか、町で実施している定期券の利用者状況ですとか、利用者の方の声などをお伺いできればと思います。

また、利用者増加に伴って、週末になると駐車場が足りない状況もよく目にします。その場合の駐車場は、文化村の駐車場のほうになるのかなと認識しているのですが、結構バスの出発ぎりぎりに来た方が、そのまま慌てて駐車スペースではないところに車を乗り捨てて、慌ててバスに乗り込んでく

るというふうなシーンも度々目にするものですから、この駐車場の問題についても、もし当町のほうで何かできることがあれば、ぜひ改善に向けて動いていただけるとありがたいなと思っているのですが、そちらのほうについてもご回答のほうをよろしくお願いいたします。

続いて、2点目は、自動運転バスについての質問でございます。エストニア製の最新の自動運転バスのM i C aが3台、また現在も町内を走行しているフランス製のARMA、こちらも追加で2台導入される予定となっており、合計で8台の自動運転バスが町内を走る状況が見えているかと存じます。これに伴って、やはりまだ自動運転バスの走行ルートに入っていない森戸地区、猿島地区、静地区ではいよいよなのかとずっと首を長くして待たれている方が多いのではないかなと思っております。

そこで、質問になるのですが、今後台数が増えたことによる走行の予定ルートですとか、新たな利用方法、今後どのようにこれらの複数の自動運転バス、運用していくのかという部分について、現在の予定の範囲で構いませんので、ご答弁をいただければと思います。

最後に、3点目がオンデマンド交通の新規事業についての質問です。乗合タクシーのようなイメージで、事前に予約をしておけば自宅まで迎えに来てくれる町内移動専門のオンデマンド交通事業が実施される予定となっております。これは本当に待ち望んでいた方々が非常に多いのではないかなと思っておりますし、最近近所を歩いて、いろんな方とお話をすると、専らこのバスはいつ始まるのだというふうな質問をいただくようになってまいりました。免許を返納したいけれども、できないという方も週に1度、家族に頼まないと町の中に買物に行けないという方も、本当にたくさんの方にとって待望の事業なのではないかなと思っております。こちらは、先日、全員協議会で我々説明を受けたのですが、改めてその利用方法ですとか、対象地域、料金、開始時期等について、今協議中ということだったのですが、現時点で想定している範囲で結構ですので、ご答弁願いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上、1項目3点について質問させていただきます。執行部の誠意あるご回答をよろしくお願いいたします。第1回目の私の質問とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（倉持 功君） ただいまの境町公共交通の今後についての質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長 佐野直也君登壇〕

○企画部長（佐野直也君） 改めまして、おはようございます。それでは、佐怒賀議員の境町の公共交通の今後についての1点目、東京行き高速バスについて、現在の利用者や今後の取組について伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

まず、1としまして、現在の利用状況についてご説明を申し上げます。公共交通の充実に向けた取組としまして、令和3年7月にJRバス関東株式会社と茨城県の関東鉄道株式会社の共同運行による1日8往復16便の東京駅直通高速バス路線の運行を開始したところでございます。また、この東京駅行きの高速バスの運行開始に合わせて、都内に通学している大学生や専門学校生などの学生を対象に、

高速バスの通学定期券購入費の半額を助成する通学高速バス定期券購入費助成事業を実施させていただき、令和4年度は3名、令和5年度は7名の学生を対象に助成をしまして、高速バスの利用促進を図ってきたところでございます。そして、令和6年度につきましては、大学などに入学する学生さんからも、通学定期券購入補助への問合せをこれまでに5件いただいているということでございます。

議員ご質問の東京駅行き高速バスについての現在の利用数につきましては、令和3年度は運行が開始された7月から翌年3月までの9か月間で8,540名、令和4年度は2万6,293名、令和5年度は4月から11月までで2万5,782名、直近3か月ですと、12月が3,433名、1月が3,052名、2月が2,856名ということで、5年度の合計は3万5,123名となっております。令和4年度の同時期と比較しますと、1万1,926名増加しておりまして、町内外における路線の認知度向上により、着実に利用者が増加しているというふうな状況でございます。

2としまして、今後の取組についてご説明申し上げます。今後の取組につきましては、引き続き各事業者への運行支援を継続的に実施するとともに、新たに営業を開始する物流施設などへのPRや貨客混載の取組、アーバンスポーツパークなどの本格的なスポーツ関連施設や世界的建築家、隈研吾氏設計の施設、さらにはグランピング施設などを組み込んだパッケージプランを作成するなど、利用者増加に向けた取組を積極的に推進してまいりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご丁寧な答弁ありがとうございます。パッケージプランの導入、すごくいいなと思いましたので、引き続きぜひ実施いただけたらありがたいと思っております。

ちなみに、高速バスの駐車場についてというところに関しては、何かいっぱいになってしまっているところに対して、何か例えば看板を文化村のほうに向けて立てるですとか、何かそういったところでの駐車場の問題というのは、何か今後できる部分というのはあるのかをちょっとお伺いしたいのですけれども。

○議長（倉持 功君） 町長、橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員のご質問にお答えします。

広げてくれという話もあるのですが、まあまあが一番だといつも言っているのです。ちょうど渡邊さんがいつも子育て支援のチケットにしても、もっと出したほうがいいと言っても、まあまあが一番だという話をさせていただいたのと一緒に、まあまあがいいものですから。ただ、そうはいつでも、あちらが駐車だと分からない人もいるかもしれませんので、そういったところは看板を設置するなど対応していきたいというふうには思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（倉持 功君） 答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ありがとうございます。質問ではないのですが、やっぱりぎりぎりになって、ブッチャーズの駐車場に止めてしまったみたいなの声を聞くことがあったので、ぜひ看板設置等をご対応いただければと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（倉持 功君） 続きまして、2番……これ一遍だったのね。2、3やって、一緒に。

○企画部長（佐野直也君） 失礼しました。それでは、佐怒賀議員の境町公共交通の今後についての2点目、自動運転バスについて、現在の利用状況やM i C a 導入後の新ルートなど、今後の取組について伺いたいとのご質問にお答えをいたします。

まず、1点目としまして、現在の利用状況でございますが、自動運転バスにつきましては、令和2年11月にフランス共和国NAVYA製のARMA3台を使用して、町中心部を通る路線で運行を開始しまして、令和3年8月には、東京駅行きの境町高速バスターミナルと道の駅さかいを結ぶ路線の運行を開始いたしました。現在の利用状況につきましては、令和3年度が6,214名、令和4年度は8,071名、令和5年度は4月から11月までで9,377名、直近ですと12月が1,789名、1月が775名、2月が1,056名ということで、令和5年度の合計が1万2,997名となっております。利用者からは、買物に行けるようになった。塾の送り迎えが要らなくなった。免許を返納しても生活できる見通しがついた。境町に来る人が増えた。東京駅行き的高速バスと接続で交通が便利になったといった前向きな意見が多数寄せられるなど、公共交通網の充実という効果が現れております。

また、自動運転バスの導入により、路上駐車が少なくなり、町民の皆様もこのバスを気遣うような運転をするようになったと運行事業者よりも伺っております。

さらに、テレビや新聞など、メディアへの露出や運行管理を行っている企業の本社移転、また国内外からの多くの視察受入れなど、町の知名度向上や経済活性化といった効果も上がっております。運行事業者のBOLDLY株式会社によれば、この話題性から来る集客効果は、運行開始から3年ほどで、報道によるPR効果も含め、およそ28億円の経済効果に上るとのことでありまして、今後もさらに増加するものと考えております。

さらに、本年2月25日付、産経新聞において、同社の佐治社長のインタビューが掲載されておりましたが、佐治社長によりますと、自動運転バスが当たり前になれば、1人が1台を運転するのではなく、1人が10台を遠隔監視して運行する状況になり、生産性が上がり、給料も上がるし、便数も増え、バス会社の収益も上がる。複数の会社が連携し、全国1万台のバスを3,000人の遠隔監視シフトを組んで見守ることができる。また、バスの利用が増えれば、運賃収入でなく、周りの商業施設などでも売上げの波及効果が上がる。これまでの実証実験で車が完璧ではなくても、自動運転車を社会実装できるという成果を得た。レベル2の車両でも、地域と力を合わせれば、技術が100点でなくても実用化できる。

一方、メーカー側は、車両だけの技術で全てを解決する考えにとらわれているが、道路などのイン

フラにセンサーを数多くつければ、より安全で、ほかの自動運転車にも共有でき、コストも安く済むなど、境町の実績を中心に今後の自動運転バスの展望について述べておられました。

また、昨年5月には、BOLDLYとエストニア共和国オーブテック社の製造するM i C a を3台導入する覚書を締結し、12月6日に国内の自治体として初めてM i C a 1台を使用した定常運行を開始するとともに、残り2台につきましては、2月14日に納車後、茨城県警による道路使用許可のための公道走行審査を待っているところでございます。同じくARMAにつきましても2台が増えまして、合わせてM i C a 3台、ARMA 5台、合計8台の自動運転バスを運行することとなります。

次に、今後の取組についてでございますが、今後の取組につきましては、ARMA及びM i C a を活用し、パークホテルさかいや成田空港行きの高速バスが離発着する境古河バスターミナルへの路線延伸、既存路線の運行頻度の増加、夜間運行の開始など、今後も町民の皆様と一緒に自動運転バス事業を実施していくことで、さらに利用者の利便性を高めてまいりたいというふうに考えております。

また、こうした動きが商業施設の活性化や運送業の2024年問題にも寄与するものと考えております。将来的には、信号協調や緊急車両の検知など、着実に進めることで、レベル4の運行を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いを申し上げます。

続きまして、3点目、新年度からオンデマンド交通の新規事業が計画されているが、その利用方法や対象地域、料金などについて伺いたいとのご質問にお答えをいたします。まず、オンデマンドバスについてご説明を申し上げます。公共空白地域における移動の課題、具体的には高齢者などについては買物や通院など、子育て世帯については主に子供たちの部活動や塾などへの送迎などを解決するため、ワゴン車3台を活用しまして、オンデマンドバス運行を実施してまいりたいと考えております。この事業は、昨年3月に東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構との協定を締結した際、東京大学の須田義大教授より、埼玉県北本市の事例をご紹介いただいたことから、昨年6月14日に副町長ほかの職員が北本市のデマンドバス運行业務について視察をしてまいりました。内容としましては、東京大学と共同開発した配車システムを使い、あらかじめ登録した個人の自宅を含む7,188地点を乗降所としまして、4台のワゴン車などを運行するというものでございます。

次に、今後の取組についてでございますが、この取組を参考に、町ではオンデマンドバスの運行に向け、ワゴン車3台の購入、北本市と同様の配車システムの導入、移動中の安全を確保するため、自動運転バスの遠隔監視システムとの接続、さらには運行経費及び乗務員の育成を総合的に行う事業について、国土交通省の令和5年度共創モデル実証プロジェクトに申請したところ、8,730万円の補助金交付が決定されたところでございます。運行形態につきましては、境地区以外の交通空白地域に居住する町民などを対象としまして、北本市と同様に利用者宅などへワゴン車を配車し、行き先は病院や金融機関、公共施設などとする方向で調整をしているところでございます。また、運賃につきましては、当面無料としまして、運行時間などにつきまして北本市を参考に、午前8時から午後5時半を予定しております。

現在の状況につきましては、本年1月11日に町公共交通活性化協議会の構成員である議会、町関係団体及び公共交通関係者の皆様にお集まりいただきまして、運行内容等の説明や意見交換を実施し、2月27日には、議員の皆様及び公共交通活性化協議会の委員の皆様にご予約システムの説明を行い、実際に予約システムをダウンロードしていただき、デマンドバスを予約する方法を確認していただいたところでございます。参加者の皆様からは、買物難民の解消につながる、高齢者の移動の自由が高まってよいなどのご意見をいただいたところでございます。本格的な運行開始時期につきましては、地元公共交通事業者などとの調整を踏まえ、今後議会の皆様や関係機関等のご意見もお伺いしながら進めてまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） 丁寧なご答弁ありがとうございました。オンデマンドと自動運転バスの接続も検討されているということでお話を聞いたので、少し安心したのですが、改めて、オンデマンド交通が走ってしまうと、逆に自動運転バスはこっちには来なくなってしまうのではないかなというような、ちょっと懸念の声も聞かれていたのですが、オンデマンドでフォローしつつ、自動運転バスのほうも、ちょっと今来ていないほうのルートにも来てくださるということの認識で、こちらお間違いなかったでしょうか。

○議長（倉持 功君） 橋本正裕君。

○町長（橋本正裕君） それでは、佐怒賀議員さんのご質問にお答えします。

何回も議員の皆様にご説明しているとおり、中心地は自動運転で、遠いところはこのオンデマンドバスということで、住民の利便性第一というところで、自動運転バスの普及ではなく、自動運転車については山手線のように地域の真ん中のところ、遠いところは全てデマンドバスでやると。まずこの形でやってみて、どのくらい利便性がよくなるか、そういうのを実証、検証しながら進めていくというのが町の方針でありますので、今よりは便利になるだろうというふうには思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

ただ、先ほど副町長に、何だ4月から始められるのかと聞いたら、タクシー事業者がうんとなかなか言わないというのです。これはちょっとゆゆしき事態ですよ。だから、やっぱり議員の皆様方からも、住民のためにやるのだぞと。何をタクシー会社が、例えば森戸地区なら片道3,000円以上かかるわけです。そのお客が減ってしまうからなんておかしいではないですか。おかしいと僕が言ってもあれかもしれないですけども。

そういうことで、副町長が本社のほうに申入れをしながら、早く共同でできるようにということで、町としてはこう思っています。行く行くは、本当はタクシー会社がやればいいではないかと。タクシー会社が事業をやっていただいて、我々が車とかそういうシステムを提供しますから、運行していた

できればいいのに、片やそのタクシー業者は、片方で反対しておきながら、では受けるとなったときには人員がいらないと言うのです。ちょっとこれは本末転倒だなと思いながら、やっぱり町民第一で、やっぱり一番町の人たちが住み続けられる、やっぱりそれが一番だと思っているので、そういう事業者とも根気よく話をしながら、早期に始められるように努力をしてまいりたいというふうに思っていますので、よろしくお願いいたしますと思います。

○議長（倉持 功君） ただいまの答弁に対し、質問はございますか。

佐怒賀康輔君。

○1番（佐怒賀康輔君） ご答弁ありがとうございました。質問ではないのですが、調整等々、ぜひ副町長をはじめ、何とぞよろしくお願いいたします。

以上となります。

○議長（倉持 功君） 以上で佐怒賀康輔君の一般質問を終わります。